

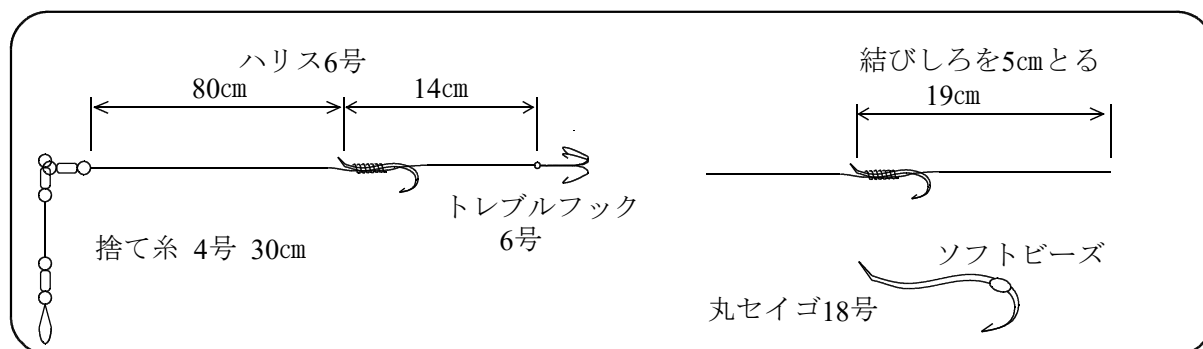
2020年12月1日(火) 鳥羽 イワシの泳がせ釣り 強丸
大潮:旧10/17 満潮06:40(197cm) 干潮12:13(84cm) 満潮17:51(195cm) 鳥羽
ヒラメ 52cm・47cm 各1尾 ハマチ 44cm 1尾

5時30分 集合 / 6時00分 出船
6時40分 満潮 (鳥羽197cm)
12時13分 干潮 (鳥羽84cm)
13時10分 沖上がり

【料金】 乗り合い 12,000円 餌込み 釣り座は船長が決める(?)

【仕掛け等】 根掛かりを考えて仕掛け・おもりを用意した。
自作仕掛け 3セットと鉤・孫鉤をハリスに結んだもの4個を持参
掛かった魚が飲み込んでいる、サワラ(?)に切られた、根掛かり、等の理由から2セットと2個を使用した。

おもり 60・80号 竿受け イワシ用網



【様子】

- 天気は晴れ。風は強い。白波が立っていた。
- 客は自分を入れて4名。釣り座は左舷側に決まっていた。
- 終日、おもりは60号で、水深は30m～60mだった。
- 釣り座に電源がないので、バッテリーを借りた(無料)。
- 午前7時頃、仕掛け着底後、しばらくして、‘ごん’という大きな当たり、また、‘ごん’という大きな当たりがあったので合わせた。ヒラメ47cmをあげた。
- 移動後、「ここは青物も狙えます」というアナウンスがあったので、青物狙いの釣り方をやった。

※当たりがないと感じたら、一番遅いスピードで2m巻き上げて10秒ぐらい待つ。当たりがなければ、更に4m(底から6m)巻き上げて待つ。当たりがなければ、サミングしながら底まで落とす。
※“一番遅いスピード”で巻き上げるとしたが、電動リールでの巻き上げで誘うわけだから、もう少し速い方がよいのかもしれない。

- 大艦で釣っていた人がハマチをあげた。しばらくして、また、ハマチかわらさを上げていた。釣り方を尋ねた。「電動リールで底から10mまでゆっくり巻き上げてくる。底まで落とす。底に落とししたら、すぐに少し巻き上げる。こうすると喰っている。」とのこと。
- 試してみたがダメだった。

- 移動を繰り返す。
- 当たりもないのに、鉤のすぐ上で切られていたり、イワシの頭だけが残っていたりということもあった。
- ヒラメの当たりらしきものがあつたが、早くに合わせてしまった。今日は、当たりがあつてもじっくり待とうと思っていたのに…。
- 場所の移動後、青物狙いを混ぜて釣っていたら、「ここはヒラメが掛かるから」と船長からアドバイスがあつた。
- 11時頃だった。コンコンという小さな当たりがあつた。やがて、止まってしまった。聞き合わせのつもりで、ゆっくり巻いてみた。先程より、少し大きな当たりがあつた。しかし、止まってしまった。もう一度、ゆっくり巻いてみた。同じような当たりがある。しかし、止まってしまった。聞き合わせのように少し持ち上げてみた。重みがある。仕掛けが底から少し上にあるはず。根掛かりではない。ゆっくり巻いてから、速いスピードで巻き合わせをした。掛かつた。先程より良型のヒラメだった。
- 少し場所を移動した。しばらくして、船が余り流されなかつたので、おもりを底に落として糸ふけを出しておいたら、ハマチが掛かつた。根掛かりしないように、今日は糸ふけを出す釣り方はしていなかつた。
- 以前の記録では11時30分納竿だったから、そろそろ終わりである。
- 場所の移動となった。糸ふけを出す方法でハマチが釣れたので、同じようなことを試みた。少し船が流れていたのだから、根掛かりを注意していたのだが、おもりを底に落としておいたら根掛かりをしてしまった。
- ラインを切ることにした。リーダーとPEラインの結び目(誠哉ノット)でリーダーが抜けていた。
PEラインー(誠哉ノット)ーリーダー・フロロ5号ーサルカン(サルカン結び)ーハリス・フロロ7号
一番強度が弱いのが、PEラインとリーダーをつないだ誠哉ノットであるということとなる。
- 再び、青物が狙える場所に来た。
- 先程、教えてもらった釣り方を試すがダメ。
- しばらくして、底から仕掛けを巻き上げ始めた時にコンコンという当たりがあつた。合わせた。掛からなかつた。青物だと思い、合わせてしまった。ヒラメならもっと待つべきであつたし、青物であつたとしても、グツと持って行くまで待ってから合わせるべきであつた。いずれにしても、合わせが早かつた。
- 午後1時10分、納竿となった。思っていたより、2時間弱長く釣っていた。
- ハマチ・ワラサをよく釣り上げていた人に改めて釣り方を尋ねた。

電動リールで底から10mまで巻き上げてくる。10mまできたら、当たりがないかしばらく待つ。その後は、“2～3m落として、当たりがないか待つ”を繰り返す。底まできたら、すぐに底から少し仕掛けを上げる(根掛かり防止のためと思われる。)。青物は餌をずっと見ているのだろう、底で当たりがあることが多い。あそこ(青物がよく釣れた場所)では、青物がよく釣れるので、この釣り方をしている。

【次回に向けて】

- 仕掛けは一人2セット、ハリスに鉤、孫鉤をつけたものを一人4セット準備する。
- 前述の2つの枠のように誘う。
- 「自分は当たりが3回くらいあつたのち、次の大きめの当たりで合わせていた。ベテランさんに合わせが早いと言われた。」 当たりがあつても確実に飲み込むまでじっくり待つこと。(以前の記録から)
- 波が高いときは餌が安定するようにおもりを底につけておく。ハリスを長くするという方法もある。波がないときは根掛かりしないようにおもりを底から少し上げておく。
- 海底の状態にもよるが、船が流されていくときは、根掛かり防止のため、仕掛けを底に落としたままにしない。
- ヒラメを狙う場所か、青物も狙える場所か、青物を狙う場所かの見極めで釣り方を変える。